

氏名	仁科 智香
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第196号
学位授与年月日	平成27年9月16日
学位論文題目	ストレスシステム理論を用いた産褥早期の母親の心の健康評価

論文内容要旨

※整理番号	201	(ふりがな) 氏名	にしな ちか 仁科 智香
修士論文題目	ストレスシステム理論を用いた産褥早期の母親の心の健康評価		
<p>I. 研究の目的</p> <p>本研究の目的は、産褥早期の母親の心の健康状態を Lazarus の心理学的ストレスシステム理論と季節性感情障害の概念に基づき検証することである。母親の日常生活行動におけるストレス（日照時間・日光曝露時間・睡眠時間）が心理的ストレス反応に与える影響を明らかにし、ストレス認知的評価過程において生じた心理的ストレス反応を尿中セロトニン濃度の測定から明らかにすることである。</p> <p>II. 研究方法</p> <p>研究デザインは、前向き調査による準実験的デザインによる関連検証型研究であり、対象は滋賀県 Y 市産婦人科クリニックにて妊娠・分娩・産褥経過において異常を認めない、本研究の主旨に同意の得られた産褥婦 80 名とした。研究期間は、2013 年 12 月～2014 年 9 月である。</p> <p>測定指標とデータ収集は、妊娠末期に STAI 特性不安尺度、産褥 2、3、4 週目に尿中セロトニン濃度、産褥 2 週目にストレス反応尺度、産褥 3 週目にストレス反応尺度・ストレス認知尺度・ストレスコーピング尺度、産褥 4 週目にストレス反応尺度の測定を行った。SPSS22.0J for Windows で基礎統計・単編量解析、重回帰分析を、Amos22 でパス解析を行い、有意水準は $p < 0.05$ とした。本研究は、本学の倫理委員会（承認番号 25-134）ならびに研究協力機関の承認を得て実施した。</p> <p>III. 結果</p> <p>本研究に参加した母親の平均年齢は冬季群 30.1 ± 3.3 歳、夏季群 31.2 ± 4.6 歳であった。尿中セロトニン濃度は両群ともに個人差が大きく、経時的変化、採取時期による濃度の変化については、両群間の統計学的有意差はなかった。母親のストレスと尿中セロトニン濃度の関連では、産褥早期の母親の日光曝露時間が長いほど、そして夜睡眠時間が長いほど尿中セロトニン濃度が増加し、心身のストレス状態を低く維持することが示された。母親のストレスと媒介過程の変数の関連では、冬季群では産褥早期の母親の間接日光曝露時間が長いほど「不安・不確実感」、「自律神経症状」「うつ・不全感」の得点が高く、夏季群では間接日光曝露時間が長いほど「不安・不確実感」の得点は低く、冬季群では直接日光曝露時間が長いほど「自律神経症状」の得点が低かった。また、冬季群では産褥早期の母親の夜睡眠時間が短いほど「不安・不確実感」、「自律神経症状」の得点が高く、昼睡眠時間が長いほど「自律神経症状」、夏季群では「不安・不確実感」の得点が低かった。そして、Lazarus らのストレスシステム理論において、ストレスの媒介過程の変数の【対処行動】が身体的効果の変数に影響を与え、産褥早期の母親のストレス状況下においては、問題焦点型、回避・逃避型コーピングのどちらもストレス緩和に作用することが明らかとなった。</p> <p>IV. 考察</p> <p>本研究より、産褥早期の母親の日常生活行動において、屋外での日光曝露時間が長いほど、また夜睡眠時間が長いほど尿中セロトニン濃度が増加し、心身のストレス状態を低く維持することができることが示唆された。また、産褥早期の母親の育児をしながらのストレスへの対処行動において、問題焦点型、回避・逃避型コーピングの両極性の行動をとるパターンが、心身へのストレス反応を軽減する状況へ有効に作用していた。</p> <p>V. 総括</p> <p>産褥早期の母親に対し生じる心身の健康を、尿中セロトニン濃度を指標として評価検討を行った結果、産後の母親への退院指導項目に日光曝露や睡眠の必要性についての内容を取り入れ、情報を提供することで母親の心の健康の向上に寄与できると考える。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。